

琉球大学学術リポジトリ

学生の「リコーダー」に対する基礎知識の現状：
学校教育教員養成課程共通科目小学校教科「音楽」
の授業を通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2016-10-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 崎山, 弥生, Sakiyama, Yayoi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/35629

学生の「リコーダー」に対する基礎知識の現状

～学校教育教員養成課程 共通科目 小学校教科「音楽」の授業を通して～

崎山弥生*

The state of concerning a study to the "Recorder" Based on the Level of the Students' Fundamental Understanding Ability ～Through the course of teacher education of a subject of "music" program elementary school system～

Yayoi SAKIYAMA *

1. はじめに

リコーダーは、日本の学校教育において最も身近な教育楽器の一つとして使用されている。小学校学習指導要領の器楽領域において、第2章 各教科 第6節 2.内容 A 表現の「第3学年及び第4学年」の項目には

- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。
- ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。
 - イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。
 - ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。
 - エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

と明記されている。

(文部科学省『小学校学習指導要領解説—音楽編—』教育芸術社、2008年、66頁)

そして、第3学年及び第4学年で使用する旋律楽器については「既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵(けん)盤楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。」

(文部科学省『小学校学習指導要領解説—音楽編—』教育芸術社、2008年、71頁)

と示されている。

選択する「旋律楽器」は「学校や児童の実態を

考慮して選択すること」と明記してあるが、日本の学校現場では、小学校3年生から器楽の活動でリコーダーの学習を始めるようになっており、ほとんどの小学校では、ソプラノリコーダーを用いて授業が行われている。

沖縄県内の小学校274校のうち、今回確認できた106校は全て、ソプラノリコーダーを使用していた。音楽の授業に於いて使用する楽器を決めるのは各学校に任されているにもかかわらず、数ある楽器の中から小学校では何故リコーダーが選ばれているのか。その理由として、まず、リコーダーは誰にでも音が出しやすい、持ち運びしやすい、丈夫、安い。などが利点として挙げられるのではないかと思う。

本研究では、誰でも演奏できるという点で「簡易楽器」として扱われがちなりコーダーに焦点をあて、教育学部の学生の「音楽」に対する経験や知識、中でも「リコーダー」に関する認識を明らかにし、リコーダー教育の意義を考察する。

2. 「共通科目・音楽」の位置づけ

教育学部が開講するこの授業は、学校教育教員養成課程・共通科目・小学校教科・半期2単位の必修科目である。履修条件は「2年次の学校教育教員養成課程の学生を優先」としているが、現状では生涯教育課程の学生や2年次以外に3・4年

* 琉球大学教育学部学校教育教員養成課程音楽教育専修
琉球大学教育学部生涯教育課程心理臨床科学コース

次も履修している。

教室に設置されている鍵盤楽器（電子ピアノ）が24台のため、定員は24名となっている。（教員はグランドピアノを使用）この科目は履修者が多く、01組、02組、03組と3つの組が設置されており、筆者の担当する組は、今年度は前期も後期もそれぞれ24名が履修している。

シラバスには「小学校教員に必要な音楽体験と音楽的能力の基礎を、歌唱、器楽、理論の各活動を通して統合的に学ぶ」と記し、小学校の公立学校教員候補者選考試験を見据え、小学校音楽の共

通教材の歌唱や器楽演奏（リコーダーと鍵盤楽器）、および楽典の基礎的な知識と技能を身につけることを目的としている。とし、教材は「上原由記音 著・音楽実技演習」を使用している。以下、文科省の設定している「共通教材」は以下の24曲（1学年4曲）になるが15回の授業で24曲網羅するのは不可能なため、授業では『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』『冬げしき』『さくらさくら』の8曲を抽出し実施している。

資料1：小学校 音楽 共通教材

学年	曲目		作詞	作曲
1	うみ	文部省唱歌	林 柳波	井上 武士
	かたつむり	文部省唱歌		
	日のまる	文部省唱歌	高野 辰之	岡野 貞一
	ひらいたひらいた	わらべうた		
2	かくれんぼ	文部省唱歌	林 柳波	下総 皖一
	春がきた	文部省唱歌	高野 辰之	岡野 貞一
	虫のこえ	文部省唱歌		
	夕やけこやけ		中村 雨紅	草川 信
3	うさぎ	日本古謡		
	茶つみ	文部省唱歌		
	春の小川	文部省唱歌	高野 辰之	岡野 貞一
	ふじ山	文部省唱歌	巖谷 小波	
4	さくらさくら	日本古謡		
	とんび		葛原 しげる	梁田 貞
	まきばの朝	文部省唱歌		船橋 栄吉
	もみじ	文部省唱歌	高野 辰之	岡野 貞一
5	こいのぼり	文部省唱歌		
	子もり歌	日本古謡		
	スキーの歌	文部省唱歌	林 柳波	橋本 国彦
	冬げしき	文部省唱歌		
6	越天楽今様	日本古謡	慈鎮和尚 作歌	
	おぼろ月夜	文部省唱歌	高野 辰之	岡野 貞一
	ふるさと	文部省唱歌	高野 辰之	岡野 貞一
	われは海の子	文部省唱歌		

尚、2015年度・前期の授業内容の詳細は以下の通りである。

資料2：2015年度・前期「音楽02組」の授業の流れ（全15回＋試験）

	日付	主な内容
1	4/4	ガイダンス/リコーダー購入について/音楽棟のピアノ/使用について
2	4/21	テキストの説明/クラヴィノーヴァの基本操作/共通教材について/音楽基礎知識の確認/指番号の確認/指くぐり・指またぎ/ハ長調・1オクターブのスケールを弾く(右手→左手→両手)
3	4/28	リズム練習・4分の2拍子(手拍子)/ハ長調・1オクターブのスケール(右手→左手→両手)/指揮の図形/『かたつむり』写譜(楽譜の書き方確認・歌詞と指遣いも記入)/コードネーム(CとG)の説明と実践/『ていんざぐぬ花』などCとGの2コードで演奏できる曲の提示/『かたつむり』歌唱とコード弾き
4	5/12	リズム練習・4分の2拍子/ハ長調・1オクターブのスケール(右手→左手→両手)/『かたつむり』調性と拍子の確認、歌唱とコード弾き(余裕のある学生はメロディーも演奏)/コードの転回形について/列ごとに分担奏(唱)
5	5/19	リズム練習・4分の2拍子と4分の3拍子/指揮の図形(3拍子)/ハ長調・1オクターブのスケール(メトロノームに合わせて)/『かたつむり』列ごとに分担奏(唱)をローテーションで/『日のまる』写譜/Fのコードの説明と実践/左手→右手→両手→弾き歌いを列ごとに分担奏(唱)→1人で
6	5/26	リズム練習・4分の2拍子と4分の3拍子と4分の4拍子/指揮の図形(4拍子)/2の位置へ1を移動させる練習(指くぐりと指またぎ)・右手のみ/『かたつむり』『日のまる』弾き歌い/『春の小川』写譜、調性と拍子の確認、弾き歌い
7	6/2	リズム練習・4分の2拍子と4分の3拍子と4分の4拍子/2の位置へ1を移動させる練習・右手のみ→左手のみ/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』弾き歌い/『とんび』、写譜、調性と拍子の確認、複付点とAmのコードの説明/弾き歌い/リコーダー購入者の注文受付(ジャーマン式とバロック式の違いの説明)
8	6/9	リズム練習・4分の2拍子と4分の3拍子と4分の4拍子/2の位置へ1を移動させる練習・右手のみ→左手のみ→両手/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』弾き歌い/『うみ』、写譜、調性と拍子の確認、#(シャープ)とDのコードの説明/弾き歌い/リコーダー購入者の注文取りまとめ
9	6/16	リコーダー受け渡し/リズム練習・4分の2拍子と4分の3拍子と4分の4拍子/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』弾き歌い/『茶つみ』、写譜、調性と拍子の確認/C6、G/Dのコード説明/弾き歌い
10	6/30	リズム練習・4分の2拍子と4分の3拍子と4分の4拍子/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』弾き歌い/『冬げしき』、写譜、調性と拍子の確認/b(フラット)とBbのコード説明/弾き歌い
11	7/7	リズム練習・4分の2拍子と4分の3拍子と4分の4拍子/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』『冬げしき』弾き歌い/『さくらさくら』、調性と拍子の確認/Am、Dm、Eのコード説明/弾き歌い(1人ずつグランドピアノをローテーションで演奏)、リコーダーについて(ジャーマン式とバロック式の違い再確認)/姿勢、吹き方、タンギング
12	7/14	2の位置へ1を移動させる練習・右手のみ→左手のみ→両手/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』『冬げしき』『さくらさくら』弾き歌い(1人ずつグランドピアノをローテーションで演奏)/リコーダーで『シ』『ラ』『ソ』の音だし/3音を使って模奏(聴奏)/『ド』『レ』の指確認/5音を使って模奏(聴奏)/5音で演奏可能な曲(メリーさんの羊、ちようちよ、ぶんぶんぶん等、耳馴染みのある曲を吹いてみる)
13	7/21	『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』『冬げしき』『さくらさくら』弾き歌い(1人ずつグランドピアノをローテーションで演奏)/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』『冬げしき』をリコーダーで演奏/
14	7/28	『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』『冬げしき』『さくらさくら』弾き歌い(1人ずつグランドピアノをローテーションで演奏)/『かたつむり』『日のまる』『春の小川』『とんび』『うみ』『茶つみ』『冬げしき』をリコーダーで演奏/試験で演奏する曲を決定
15	8/4	試験のシミュレーション(1人ずつ前に出て弾き歌い・リコーダーの演奏)/楽典等の確認/個人チェック
試験	8/11	音楽基礎理論の筆記試験(30分)と共通教材24曲から任意の曲を各自選択し、弾き歌いとリコーダーを1人ずつ演奏

3. バロック式とジャーマン式リコーダーについて

リコーダーには「バロック式（イギリス式）」と「ジャーマン式（ドイツ式）」の2種類があるが、これは設計に基づく指遣いの違いで区別されている。2つを比較してみると、以下のような違いがみられる。

バロック式（イギリス式）

ソプラノリコーダーの「ファ（アルトリコーダーではシ♭）」の音の運指が音階順ではない。
 #（シャープ）や♭（フラット）音の運指が簡単。
 大きさの異なるリコーダーに運指を応用できる。

ジャーマン式（ドイツ式）

ソプラノリコーダーの「ファ（アルトリコーダーではシ♭）」の音の運指が音階順である。
 #（シャープ）や♭（フラット）音の運指が難しい。
 大きさの異なるリコーダーに運指を応用できない。

ソプラノリコーダーでハ長調やヘ長調の音域の狭い簡単な旋律を演奏する場合は、ジャーマン式（ドイツ式）でも特に問題は無いが、より広い音域や派生音（#や♭）のある楽曲でジャーマン式を使うのは難易度が高くなる。中学校で導入されるアルトリコーダーの運指はバロック式（イギリス式）のため、小学校の導入期からバロック式リコーダーを使用するのが望ましいと思われる。しかし、実際の学校現場ではジャーマン式のリコーダーを使用している学校が多く、授業で学生達に質問してみても、バロック式リコーダーを知らない学生が多く見られる。実際、私が授業で担当した学生75人中、バロック式リコーダーを知っていた学生は22人であった。そのため、授業ではバロック式とジャーマン式の構造の違いや、メリットとデメリットを説明し、リコーダー購入の際は100%の学生がバロック式を購入している。小学生の時に使用していたジャーマン式を持っている学生には、それを持参してきてもらうため、授業の中ではバロック式とジャーマン式が混在しているが、実際の学校現場でも同じように2種類の楽器が混在した状況である事も説明し、どちらでも対応できるように指導している。

4. リコーダー教育の意義

リコーダーが日本に伝わったのは、1936年のベルリンオリンピックがきっかけとされ、小学校の教材としてリコーダーが使われ始めたのは、1959年（昭和34年）からと言われている。

各学年で使用する楽器については、学習指導要領によると

第2章 第3 指導計画の作成と内容の取扱い
 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 各学年の「A表現」の(2)の楽器については、次のとおり取り扱うこと。

ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、学校や児童の実態を考慮して選択すること。

イ 第1学年及び第2学年で取り上げる身近な楽器は、様々な打楽器、オルガン、ハーモニカなどの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

ウ 第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵（けん）盤楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

エ 第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること。

（文部科学省『小学校学習指導要領解説—音楽編—』教育芸術社、2008年、71頁）と明記されている。

第3学年及び第4学年で、リコーダーが例示されている根拠は、演奏方法が容易な事、安価（1,500円前後）である事などの理由があると思われる。

リコーダーや鍵盤ハーモニカは、息を使う楽器のため、歌唱指導との関わりも深く、リコーダーで美しい音を出そうとするするには、息の使い方によりかなり気を付けなくてはならない。息の入れ方によっては音程や音色に変化があるため、とても繊細で音楽的表現の幅が広い楽器と言える。そのため、演奏方法が容易である事や、安価である事に目がいきがちだが、実は音楽に対する感性を

育てるのにととも適している楽器だと言えるであろう。

楽器は大きく分けて、打楽器（ピアノや太鼓など）、管楽器（フルートやトランペットなど）、弦楽器（ギターやバイオリンなど）の3つに分かれる。管楽器は、管に息を吹き込み、正しい場所を押さえることで演奏可能な楽器と言える。その中で、リコーダーは最も基本となる楽器ではないだろうか。リコーダーを学ぶ事で、管楽器の基礎的な演奏法を身につけ、小学校では金管バンド、中高では吹奏楽部などいろいろな管楽器に慣れ親しむ土壌を作る事ができると思う。音楽教育をするにあたり、幅広く管楽器演奏の基本を学ばせるためにも、リコーダーは重要な位置を占めており、その正しい理解と指導が求められているのではないかと考える。

学習指導要領の音楽科の目的は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」

（文部科学省『小学校学習指導要領解説—音楽編—』教育芸術社、2008年、64頁）

と明記されている。プロの演奏家を育成するのではなく、音楽に対する感性と、豊かな情操が求められているのだ。

リコーダーを小学校から正しく学ぶ事により、生涯にわたって音楽を愛好する心が培っていきけると思うし、そのためには、教師自身がリコーダーの特性や正しい知識を持つべきで、音楽教育におけるリコーダー指導の意義を考えていかなければいけないと思う。

筆者の担当する半期・全15回の授業の中で、リコーダーを使用できるのは、5回が限度である。学生の中には、子どもの頃にピアノを習っていた。という経験者も何名かいる。授業の最初に、必ず学生1人ずつ「今までの音楽経験」を述べてもらっているが、「小中学校の音楽の授業まで」と答える学生が多数みられる。そのため、音楽の基礎知識の確認や鍵盤楽器を演奏する。という事に多くの時間が割かれ、リコーダーにかける時間が少なくなってしまうのが現状だ。ただ、ピアノを弾く事よりもリコーダーを吹く事が学生達にとっては気楽に感じているように見受けられる。実

際、試験での演奏の完成度は、弾き歌いよりもリコーダーの方が上手に吹ける学生が多いと感じる。ピアノの演奏技術は短期間で習得するには難しいすぎるため比較は難しいが、手軽に演奏できるという点で学生達はリコーダーを吹く事の方を気楽に感じているように見受けられる。授業の回数こそ少ないが、正しい知識と演奏法を授業で伝達できれば、彼等が今後教員になった時に、小学校からリコーダーが教育楽器として取り扱われている意義を認識した上で教壇に立つ事ができるのではないかと思う。

5. まとめ

2013年4月からこの授業を担当して、2016年1月現在で6期の授業を実施しており、最初は学生達の音楽に対する基礎知識の薄さに危機感を抱いていた。しかし2013年度に担当した学生が4年次になり、小学校の公立学校教員候補者選考試験を受ける頃には知識も深まり、今年度は合格者も多数出ている。

授業以外でも、教採対策セミナー等でリコーダーの実技を担当しているが、これから特に小学校の教員を目指す学生には、リコーダーに対する正しい知識を持ってもらいたいと思っている。そして、すでに現場で活躍している教員（音楽専科以外）を対象とした、リコーダーの講座なども開設していければと思っている。

今後は、バロックリコーダーの普及率や小学校音楽の授業の実態など、アンケートを作成しデータを取った上で、現状の把握と今後のリコーダー教育の意義を再認識していきたいと考えている。

【引用・参考文献】

- ・安達弘潮『リコーダー復興史の秘密—ドイツ式リコーダー誕生の舞台裏—』（音楽之友社、1998年）
- ・大和淳二『小学校における音楽の授業—その変遷と評価をめぐって—』（ぎょうせい、1998年）
- ・北村俊彦『小さな指に優しいリコーダー指導—小学3～6年生—』（小学館、2005年）
- ・柳生力『学級におけるリコーダー指導の研究』（音楽之友社、1978年）
- ・吉澤実『リコーダーアンサンブルの基礎と技法』（全

楽譜出版社、2003年）

- ・吉澤実『絶対！うまくなるリコーダーのコツ100』（ヤマハミュージックメディア、2012年）
- ・『NHK 趣味悠々 アンサンブルで楽しむリコーダー』（日本放送出版協会、2001年）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説―音楽編―』（教育芸術社、2008年）
- ・文部科学省『小学校学習指導要領第4版―平成20年3月告示』（東京書籍、2009年）
- ・仲本朝昭『リコーダー指導法』（琉球大学大学院音楽教育修士論文、1999年）
- ・今井敏勝『楽器による音楽表現研究―リコーダーを使った音楽教育と指導法』（苫小牧駒沢大学紀要 創刊号 1999年）
- ・山中和佳子『戦後音楽科教育におけるバロック式リコーダーの導入』（福岡教育大学紀要 第64号 第5分冊 2015年）